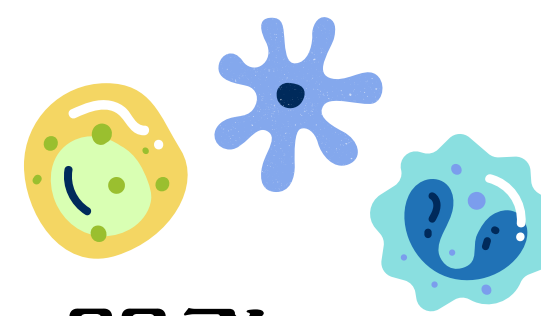


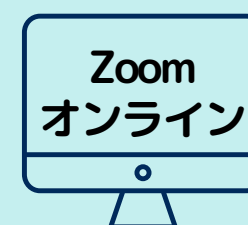


3回シリーズ

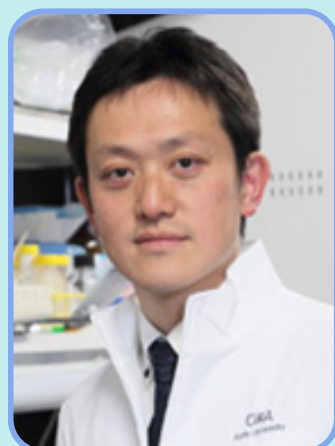
がんワクチン、 遺伝子改変・再生免疫細胞療法の開発



2023
第3回 6/28 水 17:00▶18:30



iPS細胞由来免疫細胞療法



金子 新

京都大学 iPS細胞研究所 副所長・教授

iPS細胞を用いた同種T細胞免疫治療の実用化に向けて

一部のがん治療に免疫学的アプローチが有用であることが明らかになり、医療として急速な普及を見せている。キメラ抗原受容体を発現したT細胞 (CAR-T細胞) による自家遺伝子治療はその一例であるが、自家細胞を用いた製品であるがゆえの欠点を持つことも指摘されている。我々は同種iPS細胞をCAR-T細胞のソースとして用いることでその欠点が解消される可能性があると考え、臨床応用のための技術開発を継続している。今回のレクチャーでは、iPS細胞からのT細胞誘導の基本と臨床製造への最適化、固形腫瘍への治療効果を向上させるため遺伝子改変、同種iPS細胞由来のCAR-T細胞への免疫学的拒絶反応を軽減するゲノム編集などの技術について紹介する。



植村 靖史

国立がん研究センター 先端医療開発センター
免疫療法開発分野 ユニット長

iPSC由来ミエロイド系細胞を用いたがん免疫療法

無限の増殖能と分化多能性をもつ胚性幹細胞 (ESC)、あるいはiPS細胞 (iPSC) から樹状細胞 (DC) やマクロファージなどのミエロイド系細胞を分化誘導する技術が開発され、免疫療法への応用が期待されている。しかし、治療に必要な細胞数を得るための操作性や原材料コストなどの問題を抱えている。本日は、私達が開発中のiPSC由来ミエロイド系細胞のがん治療への応用の可能性について紹介する。

参加登録はこちら！

<https://us02web.zoom.us/meeting/register/tZcsduuvqjMpEtYa9LfQQgmVKaqPv7LIVk0H>

登録後、ミーティング参加に関する情報の確認メールが届きます。

